

平成 28 年度健康生活科学研究所外部評価委員会【事前評価】

個票 No.	研究課題名	評価 結果	コ メ ン ト
1	ウイルス性発疹症の病原体解析と迅速検査法の確立に関する研究	採択	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <p>①麻しん、風しんの確定診断の根拠となるウイルス遺伝子診断の精度管理は必要である。</p> <p>②当県には国際港や空港があり、海外との交流も多いので、感染の危険性がある。本研究は当該研究所に適した研究内容である。</p> <p>③予算額が少ない、規模は適切か。</p> <hr/> <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <p>①研究員にも感染する危険性があるため、研究にあたっては十分注意すること。良い業績が得られることを願っている。</p>
2	食中毒の原因となる自然毒の検査方法の確立及び探索	採択	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <p>①残留農薬、食品添加物の仕事がほぼ終末を迎えた現在、本研究は最適の仕事の一つといえる。</p> <p>②これからさらに多くの毒キノコ、貝毒、魚毒の発見が期待できる。</p> <hr/> <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <p>①本研究で最も重要なのは、毒素の標準品の確保と保存管理である。</p> <p>②同じような研究をしている岐阜県、長野県、青森県に比し、本県では毒キノコの採集に苦労されると思われる。</p> <p>③本研究課題は主要研究として外部評価しているが、内部評価のみで決定している類似研究課題の内容、予算規模等も比較のために併せて提示してほしい。</p>

個票 No.	研究課題名	評価 結果	コ メ ン ト
3	水源施設等のデータベース化及びマッピングに基づく要監視地点の選択的、集中的実態調査(耐塩素性原虫追加)	採択	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <p>①下水処理場の排水における耐塩素性原虫の実態調査は、水道のリスク管理を行う上で必要である。</p> <p>②本研究は、当研究所で行う必要性和有効性の高い仕事である。</p> <hr/> <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <p>①本研究で最も重要なのは、毒素の標準品の確保と保存管理である。</p> <p>②耐塩素性原虫による問題(クリプトスポリジウム症)は、世界中で多くの報告がある。日本で発生した大規模集団感染例は、1994年神奈川県[ビル受水槽]と1996年埼玉県[町営簡易水道]の2件である。しかし、今後日本では20～30階の高層ビルの建設が予想されることから、本原虫による感染が発生することが考えられる。ぜひこれらについて研究してほしい。</p> <p>③すばらしい成果を期待している。</p> <p>④本研究課題は主要研究として外部評価しているが、内部評価のみで決定している類似研究課題の内容、予算規模等も比較のために併せて提示してほしい。</p>
4	化学物質による水質汚染事故を想定したターゲット及びノンターゲットの分析法の開発	一	<p>【提案機関へのアドバイス】</p> <p>①除去対策法の確立は有意義であり、成功を期待する。</p> <p>②本研究の要旨からみて、標題の「ターゲット及びノンターゲット」の意味が分かり難い。本研究では汚染物質の農薬に限定しているので、標題を下記のように修正してはどうか。「化学物質による水質汚染事故を想定した規制及び未規制農薬の分析法の開発」</p> <p>③本研究課題は主要研究として外部評価しているが、内部評価のみで決定している類似研究課題の内容、予算規模等も比較のために併せて提示してほしい。</p> <p>④兵庫県の水道水は主として二つの経路が考えられる。一つは琵琶湖・淀川から、もう一つは六甲山からの伏流水である。前者からの水道水は、いずれも水道法の基準に合格しているものであるが、本県の水道水は、滋賀県、京都府、大阪府と比較した場合、若干劣っている結果が観察された。本研究では主に琵琶湖・淀川水系を基に研究されると考えられるが、本水系に流出する可能性がある先述の2府1県での農薬の使用実態を調査しておくことは大切ではないかと思われる。</p>

平成 28 年度健康生活科学研究所外部評価委員会【事後評価】

個票 No.	研究課題名	コ メ ン ト
5	水道法規制・未規制 金属類の多成分一斉 分析法開発に関する 研究	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <p>①これまで公定法として設定されていなかった、健康危機管理に必要な迅速かつ効率的な分析法を確立し、マニュアルを作成したことは大きな意義がある。</p> <p>②極めて必要性、有効性、効率性及び地域性の高いすばらしい仕事である。</p> <p>③研究にあたって水道原水を用いたことは、非常に賢明である。</p> <hr/> <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <p>①水道原水の採集は何箇所で行ったのか、各箇所での結果の相関性を示してほしい。</p> <p>②できれば次の研究では、水道原水に近い浄水場での精製した水道水と原水との比較を行い、各々の金属がどれだけ除去されているのかを調査していただくことを期待する。</p>
6	インフルエンザウィ ルスの性状解析及び 迅速検査診断	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <p>①本研究の背景、目的、必要性、有効性について明確に記載され、実効されている。検査対象として、ヒトの他にトリ、ブタを取り上げた事は有効な手段であったと言える。</p> <p>②研究結果についても、鮮やかにまとめられている。</p> <p>③少額の予算規模に比して、目標達成度は高い。</p> <hr/> <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <p>①本研究結果が今後、県民のインフルエンザ予防に役立つことを願っている。</p> <p>②研究結果の記載については、学会・専門誌への投稿、専門家への報告等を行う分には十分であるが、県民、行政職員、県会議員のために、もう少し分かりやすく説明をして頂きたい。</p> <p>③もう少し、全国レベルの情報発信を行ってもよいのではないかと。</p>

個票 No.	研究課題名	コ メ ン ト
7	食中毒細菌の病原因子の保有実態に関する調査研究	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <p>①本研究では牛の検体を使用されており、これは中間型毒素の解明には極めて有意義な研究といえる。</p> <p>②本研究の要旨では、ペロ毒素（腸管出血性大腸菌）、黄色ブドウ球菌、セレウス菌の研究も入っており、非常に今範囲な菌の毒素の研究をしているので、本分野の専門家以外の読者には難解である。</p> <hr/> <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <p>①本研究成果を活用し、平成28年度から実施している調査研究の更なる充実を期待する。</p> <p>②この研究は、今度さらなる発展の余地がある。次回は食中毒細菌をもう少し焦点を絞って、さらに深く研究されることを期待する。</p>